

September 18, 2020

【前日の為替概況】ユーロドル、3日ぶり反発 ショートポジション解消する動き

17日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは3営業日ぶりに反発。終値は1.1848ドルと前営業日NY終値(1.1816ドル)と比べて0.0032ドル程度のユーロ高水準だった。東京午後からの買い戻しの動きが継続した。欧州中央銀行(ECB)の追加緩和への思惑から足元でユーロ安が目立っていたこともあり、目先のユーロショートのポジションを解消する動きが主導する形で一時1.1852ドルまで値を上げた。

なお、ポンドドルは乱高下。英金融政策委員会(MPC)がマイナス金利の有効性を議論したことが判明すると欧州時間には一時1.2865ドルまで急落した。ただ、フォンデアライエン欧州委員長の発言「英国と欧州連合(EU)の通商合意は依然として可能」のヘッドラインが流れると急速に値を上げ、一時1.2998ドルまで買い上げられた。一方、欧州委員長は「英の国内市場法案は、EUにとって非常に不愉快で驚き」とも述べており失速。その後は1.29ドル台半ばから後半でのみ合いが続いた。

南アフリカランド(ZAR)は強含み。南アフリカ準備銀行(SARB、中央銀行)が政策金利を現行の3.50%に据え置くことを発表。市場では0.25%の利下げと据え置きで拮抗していたこともあり、金利据え置きを好感する形でZAR高が進み、対ドルで16.1542ZAR、対円で6.48円を付けた。

ドル円は4日続落。終値は104.74円と前営業日NY終値(104.95円)と比べて21銭程度のドル安水準だった。米長期金利の低下などを背景に欧州時間からの売りが続き、NY序盤には一時104.53円と7月31日以来の安値を付けた。ただ、米金利がその後は低下幅を縮めたほか、クロス円が全般底堅く推移するなか、NY時間には104.80円台まで切り返す場面があった。

ユーロ円は4営業日ぶりに反発。終値は124.10円と前営業日NY終値(124.00円)と比べて10銭程度のユーロ高水準だった。米株価指数先物が軟調に推移したことが重しとなり、本日安値圏でのみ合いが続いていたが、ユーロが全般買い戻しの動きとなるとつれる形で上昇。引けにかけて124.14円まで値を上げた。

【本日の東京為替見通し】ドル円上値が重い、欧州通貨・新興国通貨の値動きが激しい

本日のドル円は上値が重く推移するか。昨日、欧州通貨やオセアニア通貨に対し一時的にドル買いになる局面でも、ドル円の戻しは非常に浅いものだった。本日も104円台はこの半年ではレンジの下限付近に位置していることもあり、本邦勢を中心にそれなりの買い意欲は出てくるだろう。しかしながら、ドルの上値の重さを昨日も確認していることで、下落ペースは緩やかになるだろうがドル円の上値は限られてくる可能性が高い。また、週末を前に世界保健機構(WHO)が欧州のウイルス感染が「非常に危険な状態」と通達していること、トランプ政権のウイルス対策スタッフが「大統領は自分の再選以外には関心がなかった」「(自分の支持者を含め)あんな汚い奴らと握手もしたくなかった、と発言していた」などと、大統領がウイルス対策に関心がなかったことを報道で訴えていることなど、欧米ともにウイルス感染や政治的な動きで様々なリスクがあることは、市場が円買いに傾きやすい状況といえそうだ。

欧州通貨はここ最近方向感がなく乱高下しているが、本日も同様に方向感がなく動くか。上記のように、英国を含め欧州に感染2波が来ていることは大きなリスク要因。また、英国では国家市場法案について、週明けの21・22日に第3・4回の全院委員会が開催される。この委員会を前に保守党は党内の調整を進めるなど、下交渉が行われていることで、様々な観測記事がポンドの値動きをより激しくさせることになりそうだ。

オセアニア通貨は重要イベント(NZの国内総生産、豪州の失業率)が昨日終了し、本日は主だった経済指標の発表が予定されていないことで小動きか。NZは来週NZ準備銀行(RBNZ)が政策金利を発表することで、すでに来週のイベント待ち状態となっている。豪州は逆に来週も主だった経済指標の発表がないことで、欧米をはじめとした政治的な動向が豪ドル相場を動意づけることになるだろう。

新興国通貨もボラタイルに動いていることで目を配りたい。トルコリラは欧州連合(EU)との関係悪化で対ドル・対ユーロ・対円と過去最安値を更新している。一方、南ア通貨・ランドは南ア準備銀行(SARB)が政策金利を据え置いたことで、対ドルでは約半年ぶりの水準までランド高が進んでいる。電力不足やウイルス感染の危険は指摘されているが、週明けからロックダウンの水準がステージ1まで引き下げられることも支えとなっている。両通貨を含め新興国通貨の値動きも激しくなっていることで、来週にかけても様々な通貨の動きから目が離せない状況になりそうだ。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ☆ 8月全国消費者物価指数（CPI、生鮮食品を除く総合、予想：前年比▲0.4%）
- 08:30 ☆ 8月全国CPI（生鮮食料品・エネルギー除く、予想：前年比▲0.1%）

<海外>

- 15:00 ◎ 8月英小売売上高（自動車燃料含む、予想：前月比0.7%／前年比3.0%）
 - ◎ 英小売売上高（自動車燃料除く、予想：前月比0.4%／前年比4.2%）
- 15:00 ◇ 8月独生産者物価指数（PPI、予想：前月比▲0.1%）
- 17:00 ◇ 7月ユーロ圏経常収支（季節調整済／季節調整前）
- 18:15 ◎ デコス・スペイン中銀総裁、講演
- 18:15 ◎ デギンドス欧州中央銀行（ECB）副総裁、講演
- 19:30 ◎ ロシア中銀、政策金利発表（予想：4.25%で据え置き）
- 21:30 ◎ 4-6月期米経常収支（予想：1579億ドルの赤字）
- 21:30 ◎ 7月カナダ小売売上高（予想：前月比1.0%／自動車を除く前月比0.5%）
- 21:30 ◇ 7月カナダ卸売上高（予想：前月比3.5%）
- 23:00 ◎ 8月米景気先行指標総合指数（予想：前月比1.3%）
- 23:00 ◎ 9月米消費者態度指数（ミシガン大調べ、速報値、予想：75.0）
- 23:00 ◎ ブラード米セントルイス連銀総裁、講演
- 23:00 ◎ シュナーベル欧州中央銀行（ECB）専務理事、講演
- 19日 01:00 ◎ 8月ロシア失業率（予想：6.2%）
- 19日 01:00 ◎ ポスティック米アトランタ連銀総裁、講演
- 19日 04:00 ◎ カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁、講演

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

17日 06:56 トランプ米大統領
「TikTokの期限に延長はない」
「TikTokについて木曜日にブリーフィングを受ける」
「新型コロナウイルスのワクチンを少なくとも2020年末までに1億個分供給できる可能性」
「米疾病対策センター(CDC)のレッドフィールド所長の『来年の夏までワクチン供給が広まらない』というのは間違えた」
「マスクはワクチンほど重要ではない」
「小さめのパッケージよりも大きな刺激パッケージが良い」
「新型コロナウイルス感染症対策のための追加救済法案の合意が近づいている」
「CDCが議会に報告したよりもワクチンは早くできる」

17日 15:38 黒田日銀総裁
「景気は引き続き厳しい状態にあるが、持ち直しつつある」
「海外経済は大きく落ち込んだ状態から、持ち直しつつある」
「個人消費は、全体として徐々に持ち直している」
「景気改善のペースは、緩やかなものにとどまると考えられる」
「消費者物価の前年比は、当面マイナスで推移とみられる」
「予想物価上昇率は弱含んでいる」
「2%物価目標は、安定的持続に必要な時点まで金融緩和継続」
「政策金利、現在の長短金利水準または下回る推移を想定」
「アベノミクスの3本の矢、持続成長に大きな成果があった」
「引き続き現在の金融政策で経済を支える」
「引き続き政府としっかりと連携しながら、政策運営していく」
「為替はファンダメンタルズを反映し、安定推移が望ましい」
「今後も為替レートを注視する」
「アベノミクスでデフレという状況ではなくなった」
「物価2%達成は、残念ながら実現しておらず努力していく必要」
「任期はあと2年半、途中で辞めるつもりはない。任期は全うする」

17日 17:10 レーン・フィンランド中銀総裁
「ユーロ圏には、引き続き潤沢な金融刺激が必要」
「米連邦準備理事会(FRB)の目標変更は、欧州中央銀行(ECB)の政策に影響する」
「ユーロドルの上昇は、物価に影響する」

17日 22:05 南アフリカ準備銀行(SARB、中央銀行)
「20年GDP見通しは8.2%減、前回予測7.3%減」
「21年GDP見通しは3.9%増、前回予測3.7%増」

17日 22:12 クガニャゴ SARB(南ア準備銀行)総裁
「新型コロナ次第ではあるが、21年成長は緩やかだろう」
「先行き不透明感が高いままであり、今後の決定はデータ次第」
「インフレは中期的には抑制されている」
「MPCは一時的な価格ショックと感染第2波を注視」

17日 22:23 欧州連合(EU)外交官
「EUはブレグジット協議を打ち切る計画はない」

17日 22:42 メドウズ米大統領首席補佐官
「ペロシ米下院議長が航空会社支援に乗り気であれば、大統領は支援する」
「航空会社は250億ドルの支援を必要とし、その額であれば3-5万人の雇用が守れる」
「航空会社支援法案は10月1日の期限前、来週にも合意が必要」

17日 23:06 石油輸出国機構(OPEC)プラス
「閣僚会議では原油生産目標のいかなる変更にも言及せず」
「新型コロナ感染状況が経済回復や原油需要に影響」

17日 23:21 サウジアラビア・エネルギー相
「もし状況が悪化するようならば、OPEC+は追加策検討のため10月に臨時会議を開催」

17日 23:30 米財務省
「イランへの新たな制裁を発表」
「新制裁はイラン情報安全省にかかわる個人と団体」

17日 23:33 フォンデアライエン欧州委員長
「英国 EU の通商合意は依然として可能」
「離脱法案ほごに繋がる英の国内市場法案は、EU にとって非常に不愉快で驚き」

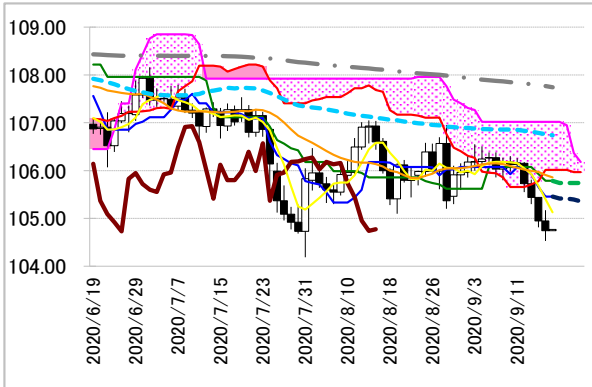
18日 01:13 メキシコ外相
「米国境の移動制限、1 カ月間の延長を要請した」

18日 02:13 ノバク露エネルギー相
「OPEC プラスの全ての加盟国が減産合意の遵守を確認」
「石油需要は 21 年第 2 四半期に完全に回復する」

18日 02:27 サウジアラビア・エネルギー相
「原油相場の投機家は OPEC に逆らわないよう警告」
「我々は 12 月まで待つ必要もなく、積極的に行動する」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

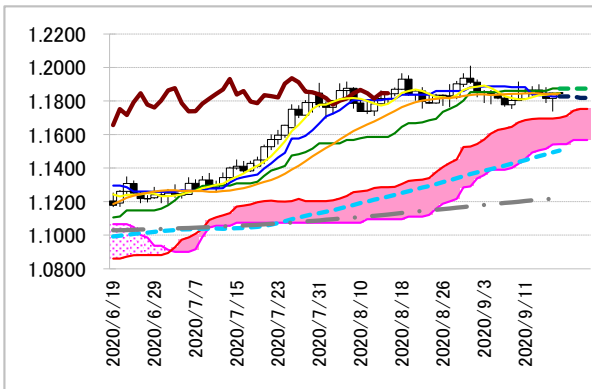


<ドル円=5日線を上回っても上値の抵抗こなしきれないか>

陰線引け。一時 105.17 円まで戻したが、目先のすう勢を示す5日移動平均線にとどかなかった。

5日線は本日 105.13 円まで低下する。同線を越えることはできるかもしれないが、低下傾向の転換線 105.46 円や同・基準線といった抵抗をこなし上伸する期待は高まりにくい。

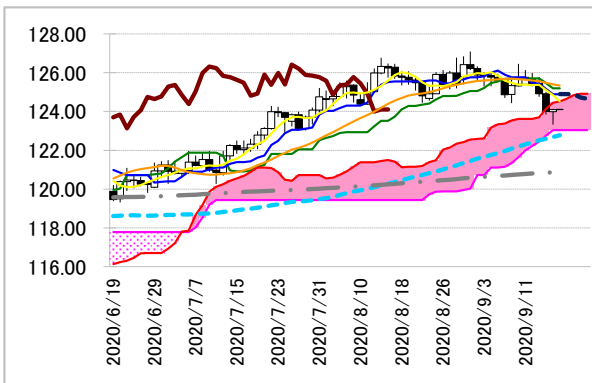
レジスタンス 2	105.79(日足一目均衡表・基準線)
レジスタンス 1	105.17(9/17 高値)
前日終値	104.74
サポート 1	104.19(7/31 安値)



<ユーロドル=転換線の動向が下向きの流れ示唆>

下影小陽線引け。一時 1.1738 ドルと、8月12日以来の安値水準へ下振れた。一目均衡表・転換線の計算対象となるレンジが切り下がり、同線が一時的にせよ戻すとの期待が失われた。低下傾向の同線が示唆する下向きの流れが続くか。戻りがあっても一目・基準線 1.1875 ドル付近で勢いが弱まりそうだ。

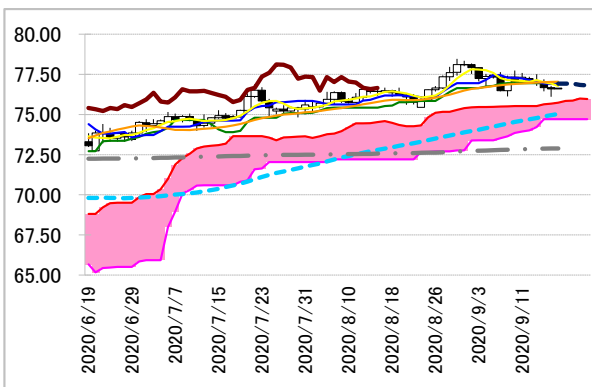
レジスタンス 1	1.1917 (9/10 高値)
前日終値	1.1848
サポート 1	1.1738(9/17 安値)



<ユーロ円=雲の下限付近のサポート確認>

下影小陽線引け。一目均衡表・雲の中で下押ししたものの戻しており、雲の下限付近のサポートを確認した。124 円台で上昇中の雲の上限に沿った戻りは期待できる。しかし、低下傾向の一目・転換線が抵抗になるだろ。

レジスタンス 1	124.89(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	124.10
サポート 1	123.56(ピボット・サポート 1)



<豪ドル円=雲のサポート試す流れとなるか>

下影小陰線引け。8月25日以来の安値 76.11 円へ下押ししたことで、一目均衡表・転換線が持ち直すとの見込みは後退した。低下傾向へ転じた一目・転換線の動きに沿って、下値を探る展開を想定する局面となった。75 円台の一目・雲の上限のサポートを試すことになるか。

レジスタンス 1	77.19(9/16 高値)
前日終値	76.59
サポート 1	76.11(9/17 安値)

